

財政状況

収入の54.0% は市税

収入・支出の状況は、図1・2のようになっています。
収入で最も多いのは市税で、全収入額における割合は54.0%（前年度54.5%）を占め、金

額は前年度比2.1%増の658億3,611万円となりました。
支出を目的別に見ると、最も多いのは民生費で、316億6,937万円（前年度比7.2%増）となっており、平成10年度以降、支出額の第1位が続いています。
また、支出を性質別に見ると、図3のようになります。
なお、平成13年度の主な事業は下表のとおりです。

平成13年度に行われた主な事業（一般会計）

款	主な事業	事業費
1. 議会費	議会の活動	7,268
2. 総務費	町田市民ホール事業	35,649
	広報活動	10,716
	庁舎の維持管理	71,744
	支所・市民センターの整備・管理・運営	63,142
	放置自転車・違法駐車対策	51,192
	事務の電算化	155,229
	市民フォーラム会館の管理・運営	16,475
	中規模集会施設の建設補助	16,645
3. 民生費	身体障がい者・知的障がい者の保護措置	157,378
	心身障がい者の援護等	267,563
	在宅高齢者へのサービス	98,668
	高齢者福祉施設の整備	47,524
	児童手当	164,134
	保育園の管理・運営	39,852
	保育所への入所・運営	407,449
	学童保育クラブの運営・管理	41,852
	子どもセンターなどの管理・運営	12,895
	生活保護	570,996
4. 衛生費	国民健康保険事業会計繰出金	336,940
	介護保険事業会計繰出金	192,524
	成人健診	99,880
	予防接種	20,420
	緑化の推進	19,120
	緑地の保全	72,475
	合併処理浄化槽の整備	16,419
	ごみの収集・処分	225,220
	ごみの減量対策	80,350
	し尿の収集	26,973
5. 労働費	病院事業会計負担金	162,660
	勤労者の福利厚生	5,216
6. 農林費	農業の振興	7,455
	土地の改良	1,741
7. 商工費	金融対策	123,511
	さくら祭りなどの観光事業	1,892
8. 土木費	私道、狭あい道路などの整備	10,027
	道路の維持・補修	58,711
	道路の新設・改良	75,667
	舗装道の改良	25,129
	街路灯の新設・維持管理	24,664
	土地の区画整理	55,788
	まちづくりの促進	228,367
	都市計画道路の築造	258,142
	公園及び緑地の整備・管理	137,484
	下水道事業会計繰出金	258,374
9. 消防費	常備消防の都への委託	405,173
	消防団の運営	13,099
	消防施設の整備	15,174
	災害対策	7,496
10. 教育費	小学校の維持管理	142,259
	中学校の維持管理	85,409
	障がい学級の運営	23,865
	学校施設の整備（大規模改造など）	851,437
	文化施設の管理・運営	75,759
11. 公債費	スポーツ施設の管理・運営	118,382
	地方債の償還金	708,541

事業費に人件費は含まれておりません。

市民の皆さんが納めた税金や国や東京都からの支出金、市債（長期借入金）などがどのように使われたかを知っていただくために、市では毎年2回（上半期、全期）財政状況の公表を行っています。これは、「町田市財政状況の公表に関する条例」に基づくもので、今回は、平成13年度全期（2001年4月1日～2002年3月31日）の財政状況をお知らせします。

お問い合わせは、財政課（☎724 - 2149）へ。

企業会計【病院事業会計】

平成13年度の市民病院の利用状況は、入院が延べ12万8,943人（対前年度比14.9%増）、外来が35万9,263人（対前年度比2.2%増）で入院・外来の料金収入は前年度を15.5%上回りました。

円の純損失となり、当年度末未処分利益剰余金は、9億7,379万円となりました。
資本的収入が資本的支出に不足する額は、内部留保資金等で補われました。
病院事業会計の利用状況と料金収益等の状況は下表のとおりです。

利用状況と料金収益

		患者数	料金収益
入	院	128,943人	48億1,288万円
外	来	359,263人	36億1,465万円

収入・支出の状況

		収益的収支	資本的収支
収	入	105億 816万円	6億8,062万円
支	出	105億6,027万円	9億3,407万円

市債の状況

市債とは、都市計画道路・公園・下水道・学校など大規模な公共施設の建設の財源として市が借り入れるお金で、その返済が長期にわたるものをいいます。
こうした施設は、長期にわたり利用することができますから、建設時の市民だけでなく、将来の市民にもその経費を負担してもら

ことが公平でもあるわけです。市債は、このような積極的な意義を持つものですが、借金であることに変わりなく、その運用には十分気をつけなければなりません。
平成13年度末現在高は1,322億9,541万6千円となっています。

市債の状況

会 計	元 金 残 高	将来負担利子見込額
一 般 会 計	726億1,028万円	133億1,173万円
下 水 道 事 業 会 計	484億7,233万円	192億 171万円
病 院 事 業 会 計	112億1,281万円	33億8,487万円
合 計	1,322億9,542万円	358億9,831万円

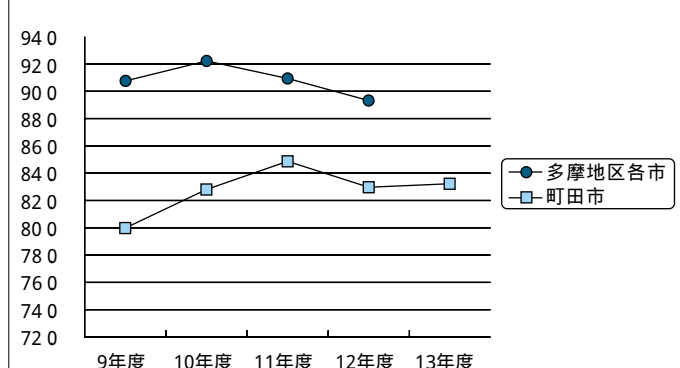
*「将来負担利子見込額」は、今後支払が予定されている金額です。

ほど自由に使える資金が多いこととなり、新たな行政需要に弾力的に対処することが可能になります。一般的に70～80%の範囲に分布するのが望ましいとされています。

公債費比率

公債費に充てられる一般財源の比率（%）です。毎年の償還金が市の財政を圧迫していないかを示す指標であり、この比率が多くなると財政硬直化の一因となります。通常は10%を超えないことが望ましいとされています。

経常収支比率の推移



公債費比率の推移

